

東京で学ぶ 京大の知シリーズ 32

再生医療

— 現状と展望 —

iPS細胞の開発以来よく耳にする「再生医療」。

科学技術の進展によって、これまで難病とされていた病気への治療法が開発される等、「再生医療」は身近なものとしてますます存在感を増し、飛躍することが期待されています。一方で、再生医療が発展することで、新しい技術を用いた研究がもたらす可能性のある倫理的課題についても考えていく必要があると言われてます。そこで今回は、「再生医療」に関する最新の研究内容を紹介し、そして、それらを活用していくために、わたしたちはどのような課題を検討する必要があるのかについても、考えてみたいと思います。

【主催】京都大学 【講演時間】各回 18時30分～20時 【参加料】無料



第1回

9月4日(水)
長谷川 光一

高等研究院
特定拠点講師



第2回

9月11日(水)
高橋 淳

iPS細胞研究所
教授



第3回

9月18日(水)
青山 朋樹

医学研究科
教授



第4回

9月25日(水)
藤田 みさお

iPS細胞研究所
特定教授

幹細胞の制御

—再生医療の産業化へ向けて—

iPS細胞などの多能性幹細胞は、無限に増殖させることができ、人体を構成するほとんど全ての種類の細胞を作製できる細胞です。このため、多能性幹細胞から作製した細胞を利用した移植治療や薬剤の開発などが期待されています。これらを広く一般的なものとするためには産業化されることが有効です。この産業化へ向けた課題と取り組みについて紹介します。

iPS細胞を用いた パーキンソン病治療

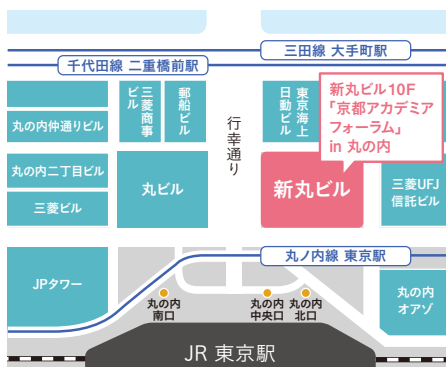
パーキンソン病はドパミンという神経伝達物質を産生する神経細胞が進行性に減少する神経難病です。主に50歳以降に手足の震えなどで発症し、徐々に動けなくなります。我々はiPS細胞から作製したドパミン神経細胞の移植によって症状を改善させる治療法を開発しており、昨年臨床試験を開始しました。本講演ではこれまでの経過と今後の展望を紹介します。

再生医療と リハビリテーション

再生医療はいよいよ実用化が進んでおり、通常臨床技術として用いられる日も遠くありませんが、単に細胞や再生組織を移植や輸注するだけではその機能を発揮する事は難しいでしょう。しかし、ここに人類が長年かけて育んできたリハビリテーションという技術があります。移植した細胞が機能を発揮できるようリハビリテーション技術の開発について提案を行います。

社会で考える iPS細胞研究をめぐる倫理

iPS細胞を使った治療法の開発が本格化しています。一方、新しい科学技術の発展は従来の価値観では判断できない「倫理的課題」を生み出すことがあり、iPS細胞技術も例外ではありません。動物の体内でヒトの臓器を作ったり人工生殖細胞を作製したりする研究が進んでいます。こうした研究をどこまで認めてよいでしょうか？当日は皆さんと共に考えたいと思います。



開催場所

「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階

問い合わせ先

京都大学総務部渉外課 京都市左京区吉田本町 国際科学イノベーション棟3階

TEL 075-753-2031 (月～金 9:00～17:00) FAX 075-753-2286 E-mail event@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open_course/kyoudainochi

申し込み方法 [お申し込みはWEBまたはFAXで]

京都大学ホームページからWEBでお申し込みいただくか、申込用紙をダウンロードしFAXでお申し込みください。各回定員120名、締め切りは8月18日(日)です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、申し込み多数の場合は、抽選となります。詳しくはホームページをご覧ください。

！ スマートフォン・携帯電話・タブレット端末から右記QRコードを読み取り、京都大学のホームページにアクセスください。

